

企業名： 岩谷産業

---

レポート名： コーポレートレポート 2021

---

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

まず、次の競争優位性にも関連するが、最初の方のページの企業紹介のところで「世の中に必要とされる企業」であり続けるために新たな価値の創造に努める社会に貢献していくと書かれていたため、このこと言葉をもとにコーポレートレポートを読んでいった。現代社会は世界規模で持続可能な社会が目指されている。前述のように社会に貢献していくことが明示されているので、レポートはほとんど SDGs について具体的施策を挙げており、目指す姿はなんとなくは理解できた。

岩谷産業は4つの事業に分かれ、全てが一体となって脱炭素社会の実現を目指している。このことからこの企業は SDGs の中でもエネルギーや気候変動についての課題を中心に取り組んでいることがわかる。エネルギーに関しては、LPガスと水素エネルギーに力を入れていて、LPガスは日本でも有数の供給体制があり、この企業のガスのブランドは国内 No.1 の顧客基盤の実績を持っており、水素事業でも世界のエネルギー関連企業が中心となって発足した「水素協議会」の主要役員として水素利用促進の活動を行っており、ここまで読んだら目指している姿が明確にわかってきた。

さらにマテリアル分野でもリサイクル促進や二酸化炭素排出削減に向けた飲料用ボトルや包装材料などの機能樹脂の開発で日常生活用品にまで脱炭素の取り組みを広めている。でんしマテリアルに関しては直接的に脱炭素に貢献しているとは言えないが、次世代の自動運転車に必要な部品の開発を行っており、間接的に脱炭素に貢献していると言える。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

これはレポートには他企業との比較のグラフなどがなかったため、この企業の強みというものはなかなか理解できなかったが、前述の内容に関連させて読み取ってみようと思う。前述の通り LP ガスに関しては顧客基盤 No.1 であったし、先端技術や医療に欠かせないヘリウムの日本市場への調達でも No.1 で中国や東南アジアへの販売も行っている。水素事業においても国内シェア No.1 でガス部門においてこの企業は競争優位性を持っていると言えるのかもしれない。カートリッジガスの事業もかなりの国内シェアを誇っており、近年自然災害が多く、非常時の備えの需要が高まっており、この事業においても将来的に競争優位性が高まりそうである。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

この企業は長期ビジョンや中期ビジョンに分けてそれぞれで計画しており、脱炭素に向

けた持続的計画はなんとなく理解できた。

長期的ビジョンでは4つの分野に分かれてそれぞれの分野が一体となって効率的にガスやエネルギーをやりくりすることで脱炭素社会の実現に向けた事業化クッ代を行なったり、顧客との営業やガスの配送などのリアルな接点とサイトやコールセンターなどのデジタルな接点に加えて脱炭素の取り組みを行うことで全体としてだけでなく顧客それぞれの地域のミクロな社会課題の解決にも取り組むことになっているため、脱炭素社会の実現をトップダウンの要領で国内に行き渡らせている。そのほかにもエネルギーや環境配慮に限らないSDGsにも積極的に取り組んでいたり、水素エネルギー社会を具体化した計画を示したり、節目となる年を基準として二酸化炭素削減目標を設定したりしていて、これが長期的に持続するかは自分には判断できないが、将来の理想を目指すビジョンは読み取れた。中期ビジョンでは具体的な数値を目標値としていて、事業拡大を目指していた。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

これに関してはガバナンスが詳細まで書いてくれていて企業の質が確保されていることが読み取れるので、人的資本も価値があることはほぼ明らかである。さらにその価値を向上させるための取り組みも具体的に示していてこれは容易に理解でき、自分の目から見てみても価値向上は達成できると思う。

まず、この企業の人事制度は「人間性尊重と能力の完全発揮」を理念にしている。人材育成では「階層別」に加えて「目的別」「他流試合型」などの集合研修や通信教育講座といったバリエーション豊富な研修メニューや海外留学派遣もあり、どんな人にも必ず適応した研修が受けられ、この企業の一員としての価値を上げられるので、もちろん自分自身の価値も向上できるだろう。さらにこの企業は社員の健康保持や増進にも力を入れており、適度な休養と福利厚生などが得られて、さらに働くことへのモチベーションが上がる余地がある。さらにただ単なる社員としての人間ではなく、様々な社会貢献活動も幅広い分野で行なっているため、一企業の人的資本の価値向上だけではなく、社会全体の人的資本としての価値も向上できるかもしれない。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

まず、競争優位性があまり理解できなかったため、他の同種企業との比較が欲しい。それが難しいなら、単に事業の紹介をするのではなく、この企業の「強み」というものを全面的煮出すような書き方をしてほしい。また、図解で解説するのはコンパクトで良いと思ったが簡略化させすぎていて、企業分析初学者の自分にとってはわかりづらくなっていたので、もう少し本文を長くしてわかりやすく言葉で解説してほしい。授業ではこの報告書はわかりづらいものだったといっていたが、実際読んでみると比較的読み取りやすく、一読でその企業がどのような企業なのかがなんとなく理解できた。上記に挙げたものも強いて言えば程度のものである。